

2018年度  
市の予算

国保税・介護保険料の値上げ  
家庭ごみ有料化で市民負担増

3月市議会で2018年度予算案は賛成多数で可決されました。一般会計と9つの特別会計合わせて909億6千万円で、前年度と比べて6.2%減(約60億円)。これは、新庁舎、新消防庁舎、新市営斎場、新図書館・市民ギャラリー、川口運動公園野球場、新治学園義務教育学校など、一連の大規模事業が終息したことによるものです。

一方、市の借金は膨れ上がり、18年度末には1,045億円と史上2番目の額になる見込みです。18年度の借金返済額は57億3,700万円で極めて厳しい状況です。

このような財政状況は、市民負担増となつてはねかえってきます。国民健康保険税は一人

当たり平均で6,016円、一世帯当たり平均で9,657円の増税、介護保険料は11段階のうち基準額の第5段階(注)で年間現行6万円が6万7,200円に、最高の第11段階は現行10万8千円が12万900円に値上げされます。国保も介護保険も根本的な問題は国庫補助が少なすぎるところにあり、「国庫補助を増やせ」と強く国に求めることが大事です。

家庭ごみの有料化は10月から実施され、45ℓの袋が県内最高額の1枚50円に。共産党市議団は国保税の増税やごみの有料化はやめよと強く求めてきました。

注)同一世帯に市民税課税者がいて、本人は非課税で、収入合計額が80万円以上

介護保険料の改正(年額、単位円)  
第1段階は( )の金額に軽減された賦課額

	17年度まで	18年度から
第1段階	24,000 (21,000)	26,800 (23,500)
第2段階	45,000	50,400
第3段階	45,000	50,400
第4段階	54,000	60,400
第5段階	60,000	67,200
第6段階	69,000	77,200
第7段階	75,000	84,000
第8段階	90,000	100,800
第9段階	96,000	107,500
第10段階	102,000	114,200
第11段階	108,000	120,900

9月議会  
久松猛議員の  
一般質問

国保税 2023年まで毎年の増税計画  
一般会計からの繰り入れ削減やめよ



土浦市は今年度から23年度まで、国保税を毎年値上げていく計画を明らかにしました(17年度末のシミュレーションによる)。これに対し、久松たけし議員は増税計画をやめるよう市執行部に求めました。

国保制度は今年度から市町村単位の運営から県主体の運営に変わりました。県は各市町村の医療費水準や所得水準を考慮して、市町村が県におさめる「納付金」を決め、市町村はそれを全額納付します。国保税の徴収は従来どおり市町村が行います。

◆土浦市が納めるべき納付金 49億5700万円 実情考慮せず 過大な見積り

納付金は「市町村ごとの所得水準や医療費水準を考慮して市町村ごとに配分する」となっています。土浦市の医療費の伸びは12年度比で16年度は2.78%減っています。しかし、県は20年度の医療費の伸びは15年度比で3.46%増になると見込んで納付金を算定しています。

◆土浦市が納めるべき納付金 49億5700万円 実情考慮せず 過大な見積り

◆土浦市が納めるべき納付金 49億5700万円 実情考慮せず 過大な見積り

◆増税は避けられた

49億5,700万円の納付金のうち保険税必要額は42億600万円。ここから国からの公費などを差し引いた37億円をねん出する必要があります。30年度の国保税収の見込みは29億1,400万円。約8億円が不足します。市は8億円のうち従来通り一般会計から5億円を繰り入れ、国保会計の基金から1億5千万円を繰り入れ、残りの1億5千万円を増税で賄おうとしています。

しかし、国保会計の17年度末の基金残高は5億9千万円。国への返還金1億5千万円を差し引くと4億4千万円。ここから2億円と一般会計から6億円(16年度並み)の繰り入れで、合わせて8億円。これで増税を避けることは可能でした。

◆一般会計からの繰り入れ 国・県いなりで毎年5千万円ずつ削減

国保の加入者は高齢者や低所得者が多く、財政基盤が弱い上に医療費はかさむという特殊な条件があります。慢性的赤字状態ですが、大幅な増税を避けるために

一般会計から繰り入れています(16年度までは6億円、17年度からは5億円)。

しかし、中川市政は議会にも報告せず、18年度から毎年5千万円ずつ4年連続で減らし、3億円まで減らす計画を決めていました。減らした分はそっくり増税になります。久松議員が追求すると「国・県が減らせよ」と言っている。市の財政も厳しいの一点張り。引き続き削減をやめるよう求めています。

新生児の聴覚検査 市が費用助成

産科の医療機関で行われる新生児聴覚検査について、この4月から助成が開始されました(上限3千円)。久松議員が昨年12月議会で求めていました。

日本共産党土浦市議団

無料法律相談のお知らせ

毎月最終土曜日 午後1時半から  
(亀城プラザ又は市民会館会議室)

- ◎ 会場は予約の際に確かめてください。
- ◎ 相談時間は30分程度です。
- ◎ 予約・問い合わせ先 <完全予約制>  
久松 猛 822-6494 井上 圭一 886-4642  
日本共産党事務所 821-5778  
※生活相談(困りごと)はいつでもお受けします。



# キララちゃんバス 運行範囲の拡大を

井上圭一議員の  
会派代表質問

3月議会の会派代表質問で、井上圭一議員は、①キララちゃんバスの運行範囲の柔軟な拡大、②民泊新法の成立を受けた地域の対応について質問しました。

## 「まちづくり活性化バス報告書」はコンセプトを立て直す時期と指摘

昨年3月付けで出された「まちづくり活性化バス利用促進調査研究報告書」



(作成は NPO 法人まちづくり活性化土浦)では、キララちゃんバスの運行開始から10年が経過し、当初のコンセプトは“中心市街地活性化”だったが、まちは年々変化し、バスのコンセプトを立て直す時期に来ていると結論付けています。

井上議員は、キララちゃんバスは、単なる輸送手段を越えた“地域をつなぎ市民の心を結ぶバス”としての価値があるはずであり、バス利用不便地域の緩和を図るために、市民の要望に沿う形で、神立地域・新治地域・荒川沖地域にもキララちゃんバスの運行範囲を柔軟に広げていき、多くの市民がアルカス土浦

を含む市街地に来てもらえるよう、事業実施事業者(NPO まちづくり活性化土浦)、運送事業者(関東鉄道、土浦地区タクシー協同組合)に市から働きかけるよう質問しました。

中川市長は答弁の中で、基幹的交通(鉄道・路線バスなど)、補助的交通(キララちゃんバス・乗り合いタクシーなど)が、それぞれの役割を担って事業者と効率的な公共交通網を形成することが望ましいが、今までの努力が足りなかったので改善していきたいと答えました。

## 民泊新法の成立を受け地域の対応を問う

空き家や空き室を宿泊施設として提供する「民泊」をめぐるトラブルが後を絶ちません。そんな中、政府与党は民泊を事実上解禁する

「民泊新法」を昨年6月の国会で成立させました。新法は届出さえ

すれば民泊の営業を認めることを基本原則にしたものです。さらに政府は、今年6月の施行に向け、必要な措置などを定める施行令や施行規則を決めました。一連の決定



は民泊を広げるための“推進宣言”です。違法民泊による住民の被害が各地で深刻化する中、今回決定された施行令は地域住民の懸念を払拭するものではありません。土浦市内のあるマンションでは、民泊禁止条項を管理規約に入れる決定をしています。このことから、規制緩和に対しては、自治体が事業者に厳格な規制を課す条例を制定して、住民と宿泊者の安全を確保する責務を果たすことが強く求められています。

井上議員は、東京五輪や茨城国体に伴う宿泊客の対応や、安心・安全なまちづくりを推進して行くためにも、「民泊新法」とはどんな法律なのか、市民が注意しておかなければならないことは何なのか、分かりやすい内容で市民に周知することが必要ではないかと、質問しました。

これに対し、市民生活部長は市の関係部署との連携を図りながら、市民に向けて民泊新法の周知を積極的にしていきたいと述べました。



## 井上議員の 反対討論

# 公共料金の値上ラッシュ 国保税、介護保険料、ごみ有料化に反対

井上議員は、日本共産党市議団を代表して国保税値上げ、介護保険料値上げ、ごみの有料化(市予算案)などに対して、次のような反対討論を行いました。

### 厳しい市民生活に追い打ち

労働者の実質平均賃金は、安倍政権発足時と比べて年16万円も減少しています。国民生活基礎調査では、前年より貯蓄が減ったのは40.1%で、その理由は「日常生活の家計への支出」が67.6%です。貧困に追い打ちをかけるように、生活保護も引き下げられようとしています。引き下げの理由は、生活保護世帯の水準に相当する収入下位10%の支出額が減ったということですが、言い換えれば、生活保護を受けていない低所得層の生活が悪化したということです。

こうした状況の中で、今回の国保税の値上は平均で一人あたり年6,016円、1世帯あたり

9,657円の増税になります。介護保険料は、基準額で年7,200円の値上です。貧弱な国の

社会保障水準のもとで、市として可能な限り値上を抑える努力が必要です。

家庭ごみの有料化は45ℓ袋で50円と県内一高くなり、特に低所得層では少なくない負担になります。公共料金の値上には反対です。水道料金も引き下げて、市民の負担を少しでも軽減すべきで、反対します。



## 市民会館大規模改造 工事始まる

2020年4月の利用開始に向け、市民会館の耐震補強・大規模改造工事が始まります。3年前の議会で井上議員が質問したエレベーター設置、小ホール中央通路・優先席設置要望が実現しました。スロープの設置も検討中です。

## 桜の名所を脅かす大敵「天狗巣病」に 予算がつきました!

昨年、井上議員が質問。市内の桜の名所のほぼすべてで、天狗巣病が蔓延し、数年後にはソメイヨシノが全滅しかねません。土浦市の桜を楽しみにしている市民のために伐採・防除の予算要望を求めたところ、今年度から新たに「桜樹延命措置委託料」700万円の予算化が実現しました。都市緑化事業費も昨年度の1,433万円から2,271万円へと、大幅にアップしました。

